

ご存知ですか？ひょっこ踊り



苦小牧の港まつりで踊り続けられている「ひょっこ踊り」をご存知でしょうか？今年も、ポーターカーニバルで愛嬌たっぷりにすばらしいパフォーマンスで沿道の大勢の観客を魅了し、見事「敢闘賞」を受賞しました。

この「ひょっこ踊り」は意外に歴史が古く、港まつりに登場したのは今から四十二年前の昭和三十八年第十回港まつりです。今年なんと四十三回目の出場となりました。

この「ひょっこ踊り」：ひょっここのお面で扮装し、「博多どんたく」のリズムで



踊る姿は、軽妙で、また滑稽さもあつて見る人の人気を集めており、代々市役所各部の持ち回りで続いてきました。

上下水道部では、平成元年度に「おいしい水」をPR



するイベントにしようとするらしいの法被を作り、山車にも「おいしい水」の看板を取り付け、部をあげて参加

しました。その後も上下水道部として、現在まで連続で出場しています。そうこうしているうちに、上下水道部



内のお祭り好きな有志が集まって「ひょっこ踊り保存会」なるものを結成しました。

会のモットーである「祭りは見るものではなく、参加して沢山汗をかいて美味しい水（酒？）を飲もう」を実践しております。

苦小牧のおいしい水を守ると共に、「ひ

よっこ踊り」をも守る…ということですが。

皆さんも是非この「ひょっこ踊り」に今一度注目してください。

これからこの長い伝統を絶やすことなく保存会には頑張りたいと考えています。苦小牧の名物として残していきたい



◆ひょっこ踊りの原点◆

四〇年以上も続いている「ひょっこ踊り」ですが、生まれたきっかけは、港まつりへの仮装行列などの出し物を考えていた苦小牧市が、当時静岡県清水市に住んでいた舞踏家の藤本紫紅さんに「簡単に踊れる踊りを…」とお願ひし、オリジナルの「ひょっこ踊り」を考案してもらったのがそのルーツ。

平成七年に考案者の藤本さんを招待し、改めて指導をしていただきましたが、「まさか三十年間も続いているとは思いませんでした…」とうれしそうでした。

ひょっこ
火男ならぬ水男が守る伝統
「ひょっこ踊り保存会」ここにあり…!